

屋久島生態系モニタリング

屋久島中央部の植生垂直分布調査(平成 24 年度)

●標高 1600 地点(No.3 プロット)小高塚山から焼野三叉路へ向かう稜線
[高木層 6-11m] 密度は低いがスギが優占し、ヒメシヤラがやや多く、タンナサワフタギ、ヤマグルマが混じる。風衝のため樹冠の発達が悪く、植被率も低い。
[亜高木層 3-6m] タンナサワフタギが優占し、スギ、ヒメシヤラ、ヤクシマシヤクナゲ、ヤマグルマが続く。スギの枯木もある。5年前は風衝のためやや矮林化していたが回復しつつあり、イワガラミ、ツルアジサイが樹幹に多く巻き付く。タンナサワフタギとヤクシマシヤクナゲの多くは前回までは低木層だったが、今回は成長し亜高木層になった。
[低木層 1.2-3m] タンナサワフタギとヤクシマシヤクナゲ、カナクキノキが生育し、ヤクシマシヤクナゲは積雪のため斜面下方に匍匐～斜上するように生える。
[草本層 1.2m未達] ヤクシマシヤクナゲが多い。草本類はスゲ属、コバノシカグマが多い。植被率は 10%と低い。
[群集及び特徴的な出現樹種] スギーヤクシマシヤクナゲ群集。優占種はスギであるが樹高は低く、樹冠の発達も悪い。スギの枯木が目立つ。草本層で優占するヤクシマシヤクナゲは、このプロットではオオヤクシマシヤクナゲ型のものではなく、ヤクシマシヤクナゲのみ出現。積雪の重みで匍匐するヤクシマシヤクナゲの樹形がこの林分の特徴。
[植生の変化考察] 高木層のスギは、風衝の影響で上長成長はあまり見られなかったが、一部個体の肥大成長が見られた。また亜高木層の一部のタンナサワフタギやヤマボウシ、ヒメシヤラ、ヤマグルマの上長成長が見られ、それらは亜高木層から高木層へと変化。しかし、成長し樹冠が高くなると風衝被害を受けるので樹冠の発達はそれほど良くなく、高木層の全体的な植被率は 5%と変化しなかった。また前回低木層だったヤクシマシヤクナゲやハイノキ、アセビの多くが、上長成長により低木層から亜高木層へ変化。一方でヤクシマシヤクナゲやハイノキ、アセビ等の低木の被圧枯死木(立枯・風倒木)が 10 数本見られた。なおヤクシカによる食痕は、ヤクシマダケに対するものは確認されたが、この標高付近は元々ヤクシマダケの生育本数は少ない。

平成 27 年度第 1 回屋久島山岳部利用対策協議会が 4 月 24 日に屋久島環境文化村センターにおいて開催されました。

まず、平成 26 年度の屋久島山岳部保全募金の収支について説明がありました。

募金総額は、約 20、751 千円となり荒川登山口での募金額が前年に比べ約 4、156 千円の減、募金率についても前年に比較し約 10%減の 35.8%との報告がなされました。

平成 27 年度の山岳部保全

平成 27 年度第 1 回 屋久島山岳部利用対策協議会開催

募金の見込みについては募金総額が 16,000 千円、支出額 19,027 千円で不足額については前年度繰越金により対応するが、非常に厳しい運営状況見込みであると説明が行われました。

次に、屋久島山岳部保全募金の新たな入山協力金への移行について協議が行われましたが、一部委員の意見を受け、今後部会方式で検討することとし、実務担当者会議で協議を進めることとされました。

また、大株歩道近くのモー

ターカー回転場所に設置してあるトイレブースをモーターカーの安全運行の観点から撤去し設置場所を変更することとし第 1 回の協議会を終了しました。

屋久島レク森臨時総会開催

4 月 23 日、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会の臨時総会が開催されました。

開催理由は、去る 3 月 26 日開催の入山税検討会議で決定された新たな入山協力金とレク森の森林環境整備推進協力金との一元化について、山岳部利用対策協議会から検討依頼を受けて開催したものです。

検討結果は依頼項目別に、①収納事務の一元化、②会計の一元化③組織の一元化は、いずれもできないとし④収納事務については協力していくことが確認されました。



レク森協議会臨時総会の様子

屋久島の植物



ヤクシマミツバツツジ (ツツジ科)

屋久島に固有の落葉低木。高地の明るい場所で見られる。花色は紅紫色で、開花はシヤクナゲの少し前。葉の展開が終わる前に開花するので花がより自立つ。葉は菱形のよつな卵形で、枝先に 3 枚輪生する。花期 4、5 月、果期 9、10 月。

着任の挨拶

屋久島森林生態系保全センター 所長 山下 義治



4 月 1 日付けの異動で屋久島森林生態系保全センターに参りました山下義治です。

屋久島勤務は、今回が 2 回目。昭和 61 年から 3 年間旧下屋久営林署栗生担当区事務所に勤務、先日島内を巡りましたが 27 年の時の流れを感じました。今回再び屋久島で勤務できることを大変うれしくまた身の引き締まる思いです。

森林生態系保全に関する業務は、平成 25 年 3 月までの

2 年間西表島で携わってまいりました。亜熱帯性の森林に覆われ世界自然遺産地域への登録に向けマングローブ林の保全、希少種の保護、外来種対策等に取り組んでまいりましたが、屋久島は、日本で最初に世界自然遺産に登録された 22 年を迎えます。屋久島は、国割岳周辺の植生垂直分布に代表される大変貴重な森林生態系が維持されています。この屋久島世界自然遺産地域を適切に管理するために世界遺産地域科学委員会、ヤクシカワーキング等を開催するとともに、各種モニタリング調査を実施するなどの取り組みを行っています。

今後増加が予想される入山者への対応や森林生態系保全に向け、各機関等と連携を図り屋久島森林生態系保全センターの業務を進めて参りたいと考えております。よろしくお願いいたします。

「シャクナゲパトロール」を計画

～登山者への注意など呼びかける～

ヤクシマシャクナゲの開花時期を迎え、屋久島森林生態系保全センターでは、例年、登山者が多くなる時期に合わせて屋久島森林管理署と協力し「シャクナゲパトロール」を行っています。

今年は、5月25日（月）～6月5日（金）を計画。高山植物の盗掘防止や登山マナーの呼びかけを行うこととしています。今年のシャクナゲの開花は、春先に寒気が訪れたこと、去年がシャクナゲの花が多かったことなどから開花が遅いのではと予想しています。今年も世界遺自然産屋久島で多くの方が屋久島の雄大な自然を満喫していただければと思います。

【登山者のマナールール】

- ①ゴミは絶対捨てないで持ち帰ること。
- ②登山道から外れないこと。
- ③動植物の捕獲、採取を行わないこと。
- ④トイレは決まった場所及び携帯トイレを使用すること。
- ⑤宿泊する登山者は、避難小屋を使用すること。

など、お願いしていますが、昨年は湿原地内に足跡がみられるなど心ない登山者も一部いるようです。今年も引き続き呼びかけを行うなど登山マナーの向上に取り組むこととしています。



巨樹・著名木屋久杉



世界自然遺産屋久島では標高 600 m以上の山地に自生しているスギのうち樹齢千年を超えるものを屋久杉、それ以外は小杉と呼ばれています。今月号から屋久島で知られている巨樹・著名木について紹介することとします。

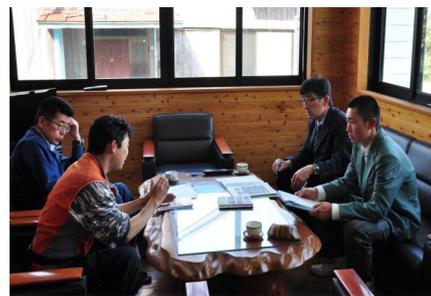
紀元杉

- ・樹高：19.5 ㍎
- ・胸高周囲：8.1 ㍎
- ・樹齢：推定 3 千年
- ・標高：1230 ㍎
- ・場所：ヤクスギランドから安房林道沿 5.6 ㍎先

4月17日、屋久島高等学校 普通科環境コース3年生の1名が、高校の課題でヤクシカに関する研究のため来所しました。

以前は近所で見かけていたヤクシカがあまり見られなくなつたような気がするけど、どうしてなんだろうという疑問からテーマに選ばれたそうで、①生息場所・数の推移②数の調査方法③食

屋久島高校生来所
くヤクシカを学ぶく



熱心に説明を聞く高校生

⑤ 捕獲の理由⑥ 捕獲方法と場所⑦ 理想的な生息数等と

中心に質問がありました。生態系管理指導官の説明にメモをとりながら、一言も聞き逃さないよう懸命に聞いていました。実際にヤクシカのモニタリング調査を実施している当センター非常勤職員も説明し、より鮮明な実態を感じられたことと思います。最後に資料のコピーやヤクシカ好き嫌いの図鑑、シカの被害が判る図鑑を借り、今後もヤクシカについての研究を進めていきたいとして学習を終りました。